第６章　社会教育施設

本章では、社会教育施設のうち、ホール、図書館、博物館的施設（美術品や史料などの展示室等）を取り扱います。これらは、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（社会教育）に資するように、設置・運営されている施設です。また、都市公園の中から歴史公園を取り上げます。

第１節　ホール

ホールは、文化的催しや各種集会などに利用される施設です。大空間内に舞台や観覧席、各種設備が効果的に配置され、優れた音響、視覚効果等が得られるように設計されています。貴重な体験や忘れられない感動が得られる可能性を持つ施設である一方、舞台回りをはじめ特殊な設備も多く、その維持には多額の費用がかかります。

１　施設概要

本市は、全部で５つのホールを保有しています。その概要は、図表 6-1-1 のとおりです。

最大のものは熊谷文化創造館【さくらめいと】（④）で、市内で唯一の１千席規模のホールを有します。最も古いものは妻沼中央公民館大ホール（①）ですが、文化センター文化会館（②）も同程度に古く、これらは旧耐震基準に基づいて建築されています。文化センターについては、2017（平成 29）年度に耐震補強工事を実施します。また、最も新しい【あすねっと】（⑤）が供用開始（開館）となったのは、2005（平成 17）年でした。

なお、文化センター、【あすねっと】、【ピピア】などは、いずれも図書館や公民館などとの複合施設ですが、ここでは、主にホールに係る部分の延床面積を表に計上しています。また、この施設白書では、固定席を有する施設のみをホールとみなしているため、市民ホール（中央公民館）は、第５章第１節で取り上げています。

【図表6-1-1】施設概要（ホール）　　2016年3月31日現在

No.	名称		敷地面積（㎡）	建築年度	延床面積（㎡）	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
①	妻沼中央公民館　大ホール		―	1980	1,271.08	2040	2010	△	△ 2040	1998年度大規模修繕済
②	文化センター文化会館		6,627.39	1981	1,763.63	2041	2011	×		耐震補強工事を2017年度に実施
③	江南総合文化会館【ピピア】ホール		20,866.89	1995	2,809.45	2055	2025	○	△	延床面積は浄化槽ﾌﾛｱｰ室14.66㎡を含む。
④	熊谷文化創造館【さくらめいと】	ホール	28,358.00	1997	8,663.22	2057	2027	○	△	延床面積はﾚｽﾄﾗﾝ棟158.77㎡を含む。
		会議室		1997	628.30	2057	2027	○	△	会議室1～4。第3章第8節参照（※参考に掲載）
		（小計）			9,291.52					
⑤	大里生涯学習センター【あすねっと】文化ホール		3,318.05	2005	1,586.84	2065	2035	○	△	
	合計		59,170.33		16,094.22					

＊　青色文字のデータは参考に掲載したものであり、その延床面積は、合計欄（最下段）には含まれません。

２　配置状況

各ホールの配置状況は、次頁の図表 6-1-2 のとおりです。

合併前の旧熊谷市に２つ、合併前の各町に１つずつの配置となっています。

３　利用状況

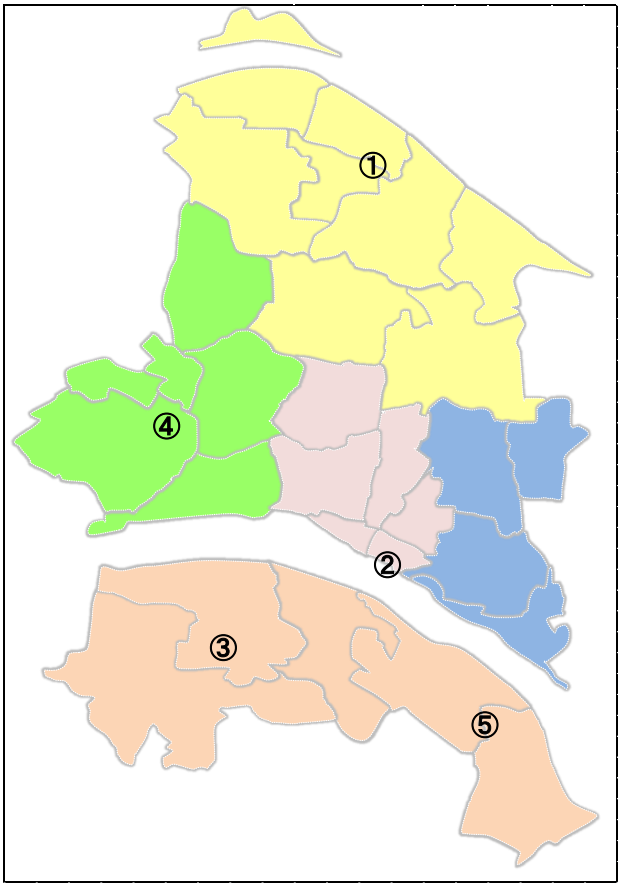
各ホールの利用状況は、次頁の図表 6-1-3 Ａ、Ｂ及びＣのとおりです。

年間及び１日当たりの利用者数や稼働率から総合的に判断して、やはり【さくらめいと】が本市を代表するホールであると考えられます。妻沼中央公民館大ホールは、稼働率では最も高いのですが、開館１日当たり利用者数ではかなり少なくなっています。これは公民館の一部であるため利用団体が客席に集客せず、舞台のみを使用したリハーサル・練習目的での利用が多い傾向にあるからです。ちなみに、利用者は、妻沼地域の団体や小中学校・幼稚園・保育園の利用が多く、毎年同時期に同様の利用があります。

稼働率が最も低いのは【ピピア】の約１８%で、【あすねっと】の約２２%がそれに続きます。ホール全体の稼働率約３６%のみならず、文化系の屋内施設（貸館施設）全体の稼働率約３１%と比較しても、低い状況であるといえます。

なお、【さくらめいと】の集計については、会議室と「風の劇場」（屋外スペース）は除いてあります（会議室については、第３章第８節参照）。

【図表6-1-2】配置状況（ホール）

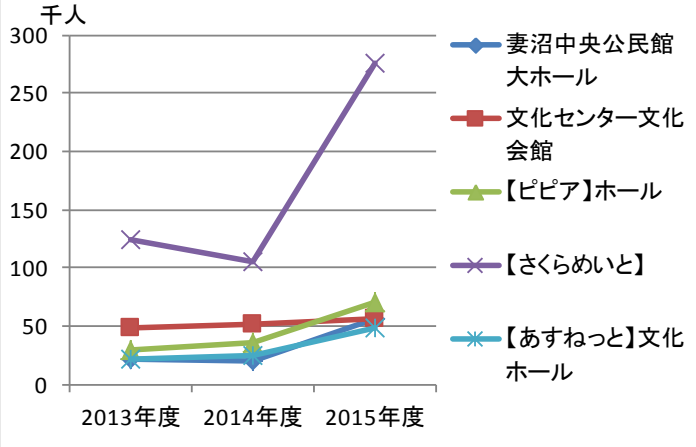


【図表6-1-3 A】利用状況（ホール）

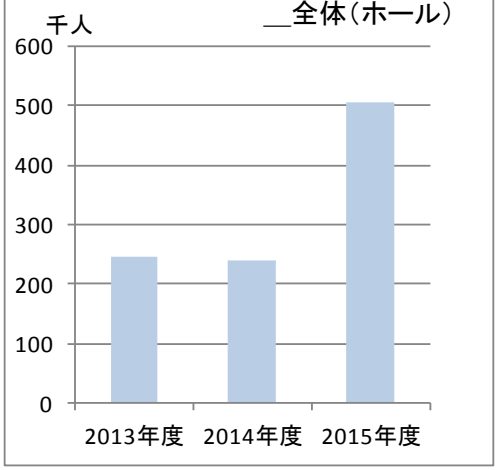
2013～15年度の3か年平均

No.	名称	年間開館日数（日）ⓐ	年間利用者数（人）ⓑ	開館1日当たり利用者数（人/日）ⓑ／ⓐ	稼働率	備考（諸室、設備等）
①	妻沼中央公民館　大ホール	354	32,730	92	45.5%	公民館の一部であるが、大ホール（826席。うち固定席642）の機能を独立して計上
②	文化センター文化会館	306	52,375	171	39.2%	ホール（500席）、楽屋1・2、練習室1～3、シャワー室1・2、市民ギャラリー
③	【ピピア】ホール	295	45,070	153	17.9%	ホール（812席。うち固定席403）、リハーサル室、楽屋A～C
④	【さくらめいと】	308	168,502	547	44.9%	太陽のホール（1,000席）、風の劇場、楽屋1～5、月のホール（250席）、練習室1～5
⑤	【あすねっと】文化ホール	304	30,867	102	22.1%	ホール（350席）、集会室・リハーサル室、研修室、楽屋
	合計（全体）		329,544	1,065	36.4%	

【図表6-1-3Ｂ】利用者数推移＿施設別（ホール）



【図表6-1-3Ｃ】利用者数推移＿全体（ホール）



4　コスト状況

各ホールの人件費を含めたコストの状況は、図表 6-1-4 のとおりです。

妻沼中央公民館大ホールについては、あくまでも公民館の一部であることから興業等の催しはできないこととなっており、また、使用料も低額に抑えられているため、他のホールに比較して収入は少なくなっています。

【図表6-1-4】コスト状況（ホール）　　単位：千円

No.	名称	費用（コスト）				収入				正味ｺｽﾄ ⓒ-ⓓ	備考（管理方法等）
		維持管理運営費		減価償却費ⓑ	合計 ⓒ=ⓐ+ⓑ	（経常）			（臨時）		
		（経常）ⓐ	（臨時）			使用料等	その他	合計ⓓ			
①	妻沼中央公民館 大ホール	16,811	2,189	13,770	30,581	841	21	862	0	29,719	
②	文化センター 文化会館	53,772	3,226	19,106	72,878	11,882	17	11,899	1,149	60,979	
③	【ピピア】ホール	49,096	8,942	30,551	79,647	3,944	0	3,944	0	75,703	指定管理
④	【さくらめいと】	130,799	129,060	94,196	224,995	22,590	1,200	23,790	0	201,205	〃
⑤	【あすねっと】 文化ホール	36,245	0	17,191	53,436	4,036	0	4,036	0	49,400	〃
	合計	286,723	143,417	174,814	461,537	43,293	1,238	44,531	1,149	417,006	

5　災害時の役割

災害発生時の避難場所・避難所としての指定状況は、図表 6-1-5 のとおりです。

いずれの施設も、第一避難所のみでは避難者を収容しきれない場合などに開設される第二避難所として位置付けられています。

なお、文化センター文化会館は、帰宅困難者待機場所の設置予定箇所にもなっています。

【図表6-1-5】災害時の役割（ホール）

No.	名称	指定緊急避難場所			地震時（建物）	指定避難所の区分
		洪水時				
		荒川	利根川	福川等		
①	妻沼中央公民館　大ホール	○	③	○	－	第二避難所
②	文化センター文化会館	②	○	○	－	〃
③	【ピピア】ホール	○		○	○	〃
④	【さくらめいと】	○	○	○	○	〃
⑤	【あすねっと】文化ホール	－	○		○	〃

6　管理運営の状況

５つのホールのうち３つまでは指定管理者制度に基づき民間による管理運営が行われており、効率性等の追求がなされています。指定管理導入前後でのコスト比較は、次頁の図表 6-1-6 のとおりです。

残る２つのホールについても、直営管理であるからといって一概に非効率というわけではなく、サービス向上にも努めています。ただし、指定管理導入の可能性という点からすると、施設の老朽度合い、耐震性能等が制約となり、現状での導入は困難であるようです。

7　利用者・市民の負担状況

利用者１人・利用１回当たり又は市民１人当たりのコスト（負担状況）をまとめたものが、次頁の図表 6-1-7 です。利用者負担額が市のコストに占める割合（水色の枠の部分）をみると、ホール全体では約9%であり、残りの９１%は施設を利用しない人も含めた市民全体で負担している状況です（比較の対象を維持管理運営費に限れば、利用者負担割合は１５%となります。備考欄参照）。

【図表6-1-6】指定管理の導入効果（ホール）

No.	名称	導入年月日	維持管理運営費（千円）				削減効果 ⓑ−ⓐ	導入後における その他の効果など
			導入前		導入後			
			年度	金額ⓐ	年度	金額ⓑ		
③	【ピピア】ホール	2012.4.1	2011	39,497	2016	202,934	△ 2,398	様々なジャンルの自主事業の実施とそのことによる来場者数の増加、利用者の要求に対する対応の迅速化　など
④	【さくらめいと】	2006.4.1	2005	136,497				
⑤	【あすねっと】文化ホール	2012.4.1	2011	29,338				
	合計			205,332		202,934	△ 2,398	

＊1 「削減効果」の欄には、削減できた額をマイナス（△）で表示しています。
＊2 端数処理の関係で、表の掲載金額から計算した結果と表中の計算結果とが不一致の場合があります。

【図表6-1-7】利用者又は市民の１人当たりコスト（負担状況）（ホール）

単位：円

No.	名称	利用者1人・利用1回当たり					利用者負担額が市のコストに占める割合 Ⓐ／Ⓔ	市民1人当たり年間コスト（負担額）				備考（利用者負担額が維持管理運営費に占める割合）Ⓐ／Ⓑ
		利用者負担額 Ⓐ	市のコスト					維持管理運営費 Ⓕ	減価償却費 Ⓖ	経常収入 Ⓗ	合計 Ⓕ+Ⓖ−Ⓗ	
			維持管理運営費 Ⓑ	減価償却費 Ⓒ	その他経常収入 Ⓓ	合計 Ⓔ=Ⓑ+Ⓒ−Ⓓ						
①	妻沼中央公民館大ホール	26	514	421	1	934	2.8%	83	68	4	147	5.1%
②	文化センター文化会館	227	1,027	365	0	1,392	16.3%	266	95	59	302	22.1%
③	【ピピア】ホール	88	1,089	678	0	1,767	5.0%	243	151	20	374	8.1%
④	【さくらめいと】	134	776	559	7	1,328	10.1%	648	467	118	997	17.3%
⑤	【あすねっと】文化ホール	131	1,174	557	0	1,731	7.6%	180	85	20	245	11.2%
	全体	131	870	530	4	1,396	9.4%	1,421	866	221	2,066	15.1%

8　合併等に伴う整理統合の状況

合併後、ホールの整理統合は、実施されていません。

合併前の各団体（旧熊谷市・大里町・妻沼町・江南町）の区域でみると、いずれも１団体につき１つ（又は２つ）のホールを保有していました。合併前の旧熊谷市は人口１５万人でホール２つであったのに対し、新市は２０万人でホール５つですので、人口規模では１．３３倍であるのに対し、ホールの数は２．５倍になっており、人口規模に比して多くなっているのが現状です。

もっとも、基本方針で示された基準は、施設数の削減ではなく延床面積の削減ですので、施設数は減らすことなく、各ホールに一律に４３％削減を適用し、施設規模を縮小して存続を図るという選択肢も計算上は可能です。しかし、そのようなことをすれば、実際上は全てのホールを使い物にならない施設に作り変えてしまうおそれがあります。ホールに関しては、施設数を減らしても、存続する施設の規模と質を維持する視点が不可欠です。

9　耐震化及び老朽化対策の状況

妻沼中央公民館大ホールと文化センター文化会館の耐震性の確保が課題となっていますが、文化会館については、2017 年度に耐震補強工事を実施します。

また、これらのホールは、妻沼中央公民館が 2010（平成 22）年度、文化会館が 2011（平成 23）年度を目安として大規模修繕を実施すべき時期を経過しています（耐用年数を６０年とし、築後３０年目で１回の修繕を想定した場合）。ただし、妻沼中央公民館大ホールは 1998（平成 10）年度（築後１８年目）に大規模修繕を実施していますので、実際上は 2020 年度頃まで次の修繕を待つことができるかもしれません（耐用年数を６０年とし、築後２０年目と４０年目に計２回の修繕を想定した場合）。一方、文化会館については、1981（昭和５６）年度に整備されて以後、必要に応じて改修等を実施しておりますが、今後も、舞台装置をはじめとした設備改修や内装改修、屋上屋根の防水改修等、長期的に存続を図るのであれば、大規模修繕が必要となります。

第2節　図書館

図書館は、生涯学習施設として子供からお年寄りまで、広く利用されている施設です。市内には、熊谷、妻沼、大里、江南の４つの図書館があり、併せて移動図書館さくら号が図書館から遠い地域であり人口も多い西部地区を中心に巡回しています。

熊谷図書館が、中央館として熊谷市全体の図書館サービスについて計画し、他の図書館と連携を取りながら、貸出しやレファレンス、おはなし会など各種の図書館サービスを提供しています。

1　施設概要

本市の図書館の概要は、図表 6-2-1 A のとおりです。

熊谷図書館（①）は、1911（明治 44）年に熊谷寺の南西の角に設立された私立の熊谷図書館が翌年当時の熊谷町に移管されたのを沿革とします。その後、町立から市立の図書館となり、1979（昭和 54）年 11 月に現在の場所に移転しました。他の図書館は、当初から公設です。

本市は、合併前の市町がそれぞれ図書館を設置していたため、人口２０万人の市域に４つの図書館が設置されており、5万人に１館という比較的恵まれた状況にあります。図表 6-2-1 Ｂは、人口１００人当たりの図書館延床面積の県内トップ３と本市、全県平均とを比較したものですが、熊谷市は全県の平均値を上回っています。

【図表6-2-1 A】施設概要（図書館）　　2016年3月31日現在

No.	名称	敷地面積（㎡）	建築年度	延床面積（㎡）	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
①	文化センター熊谷図書館	―	1979	3,718.61	2039	2009	×		延床面積は4階の講座室等の面積581.01㎡を含む。耐震補強工事を2017年度に実施
②	妻沼図書館	2,574.45	1991	1,238.13	2051	2021	○		
③	【あすねっと】大里図書館	―	2005	740.36	2065	2035	○		
④	【ピピア】江南図書館	―	1995	891.09	2055	2025	○		
	合計	2,574.45		6,588.19					

＊　①、③及び④の「敷地面積」については、前節を参照してください。

なお、熊谷図書館の閉架書庫には「熊谷町役場文書」等の一次資料を収蔵していますが、美術・郷土資料収集基準により収集されていますので、公文書館的機能を含めて、熊谷図書館の博物館的業務については、次節に譲ることとします。

【図表6-2-1 B】人口100人当たりの床面積の比較（図書館）

県内順位	団体名	人口（人）	館名	延床面積（㎡）	人口100人当たりの床面積（㎡）
1位	東松山市	89,667	東松山	5,206	6.90
			高坂	985	
2位	秩父市	64,907	秩父	3,823	6.62
			荒川	472	
3位	鶴ヶ島市	70,045	鶴ヶ島中央	4,255	6.07
13位	熊谷市	201,787	熊谷	3,138	2.98
			妻沼	1,238	
			大里	740	
			江南	891	
県内40市平均		6,689,715	－	186,519	2.79

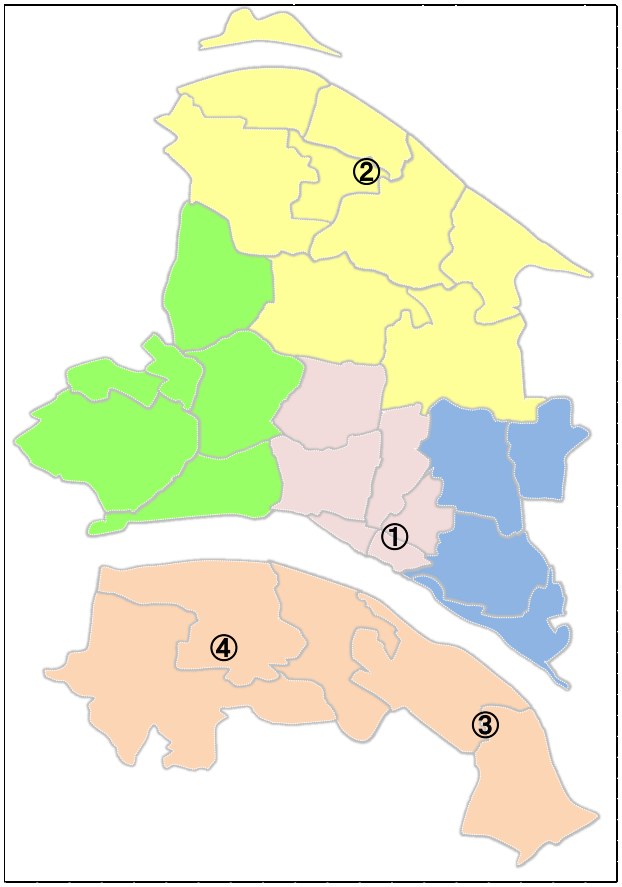
＊「平成27年度埼玉の公共図書館」ほか平成26年度の統計より。ここでは、熊谷図書館の面積については、講座室等を除いた値を用いて比較しています。

2　配置状況

４つの図書館の配置状況は、次頁の図表 6-2-2 のとおりです。

合併前の旧市町に１館ずつの配置となっています。荒川の南岸（南部エリア）に２つの図書館が配置されていて、人口の多い西部地域に図書館が無いという状況です。現在は、移動図書館さくら号で西部地区を重点的に巡回することにより、図書館から遠い西部地域への図書館サービスを実施しています。

【図表6-2-2】配置状況（図書館）



3　利用状況

各図書館の年間の利用者数、貸出冊数、予約件数等は、図表６-２-３Ａ、Ｂ、Ｃ及びＤ（次頁）のとおりです。

熊谷駅南口から徒歩４分という恵まれた立地にある熊谷図書館が、貸出冊数、予約冊数ともに群を抜いています。熊谷図書館は周辺にオフィスもあることから、平日の利用もありますが、他の３図書館は休日の利用が主となっており、居住地域別の詳細な利用状況を分析してみると、熊谷図書館に近い地域に居住する市民であっても、休日に車で他の３図書館に出かけるといった利用方法も数多く見受けられます。

なお、図表６-２-３Ｄの数値は、貸出しや返却といった図書館システムでカウントされた利用数だけを集計したものであり、館内で蔵書や新聞・雑誌を読むだけの非貸出型・滞在型の利用は含んでいません。

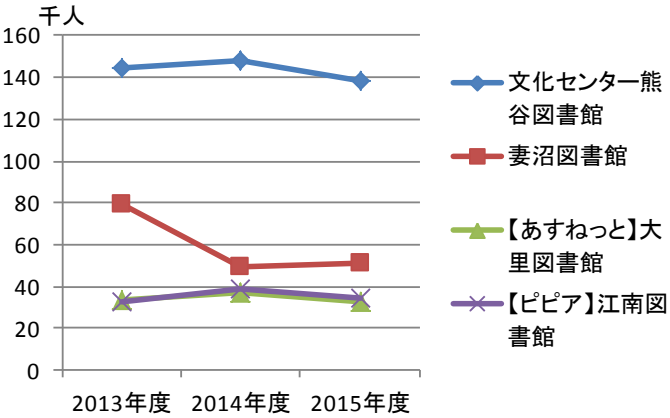
【図表6-2-3 A】利用状況（図書館）

2013～15年度の3か年平均

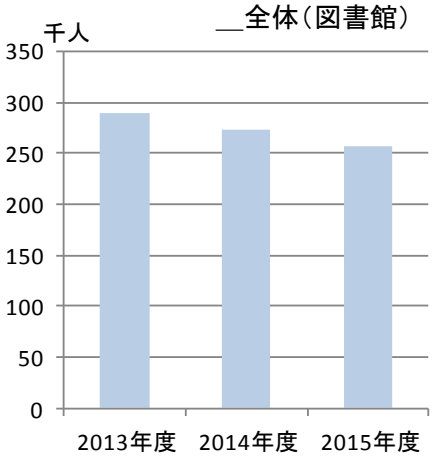
No.	名称	年間開館日数（日）ⓐ	年間利用者数（人）ⓑ	開館1日当たり利用者数（人/日）ⓑ/ⓐ	開館率	備考（諸室、設備等）
①	文化センター熊谷図書館	290	143,600	495	79.5%	蔵書数214,827冊（うち開架図書116,594冊）、閲覧席数58席。第一講座室（90人）、第二講座室（12人）、実習室（24人）、視聴覚室
②	妻沼図書館	284	59,858	211	77.8%	蔵書数91,607冊（うち開架図書61,457冊）、閲覧席数100席。おはなし室
③	【あすねっと】大里図書館	285	34,287	120	78.0%	蔵書数55,578冊（うち開架図書49,662冊）、閲覧席数43席
④	【ピピア】江南図書館	286	35,347	124	78.2%	蔵書数64,990冊（うち開架図書54,532冊）、閲覧席数26席
	合計（全体）		273,092	950	78.8%	

＊　蔵書数（雑誌、新聞、視聴覚資料等は除く。）は、2016年3月31日現在です。

【図表6-2-3 B】利用者数推移__施設別（図書館）



【図表6-2-3 C】利用者数推移__全体（図書館）



【図表6-2-3 D】貸出数・予約件数（図書館）　　＊2015年度実績値

No.	名称	年間貸出数	開館日数	開館1日当たり貸出数	年間予約件数	備考
①	文化センター熊谷図書館	459,557	290	1,585	87,153	移動図書館、熊谷駅前防犯ｾﾝﾀｰ安心館、【さくらめいと】分を除く。
②	妻沼図書館	194,046	285	681	19,760	
③	【あすねっと】大里図書館	122,107	285	428	12,060	
④	【ピピア】江南図書館	111,634	285	392	13,953	
参考	移動図書館	19,592	99	198		
	熊谷駅前防犯センター安心館	7,921	363	22		開館時間は13:00～21:00
	【さくらめいと】	4,139	309	13		開館時間は13:00～21:00

4　コスト状況

各館の人件費を含めたコストの状況は、図表 6-2-4 のとおりです（※1）。

図書館の利用は原則無料なので、コピー代金の実費徴収等以外は経常的な収入がありません（臨時収入は、耐震診断や空調設備改修に対する補助金です。）。

大里図書館と江南図書館は窓口業務等を委託していることもあり、人件費が抑えられている状況です。市直営である熊谷図書館は、業務委託している他の館と比較して、よりコストがかかっています。

【図表6-2-4】コスト状況（図書館）　　単位：千円

No.	名称	費用（コスト）				収入				正味ｺｽﾄ ⓒ-ⓓ	備考（管理方法等）
		維持管理運営費		減価償却費ⓑ	合計 ⓒ=ⓐ+ⓑ	（経常）			（臨時）		
		（経常）ⓐ	（臨時）			使用料等	その他	合計ⓓ			
①	文化センター熊谷図書館	135,119	5,104	40,288	175,407	2	98	100	2,045	175,307	
②	妻沼図書館	50,046	31,547	13,483	63,529	0	0	0	22,124	63,529	
③	【あすねっと】大里図書館	25,815	0	8,021	33,836	0	0	0	0	33,836	窓口業務委託
④	【ピピア】江南図書館	25,690	0	9,653	35,344	0	0	0	0	35,344	〃
	合計	236,671	36,651	71,445	308,116	2	98	100	24,169	308,016	

5　災害時の役割

災害発生時の避難場所・避難所としての指定状況は、図表 6-2-5 のとおりです。

【図表6-2-5】災害時の役割（図書館）

No.	名称	指定緊急避難場所 洪水時			地震時（建物）	指定避難所の区分
		荒川	利根川	福川等		
①	文化センター熊谷図書館	②	○	○	－	第二避難所
③	【あすねっと】大里図書館	－	○		○	〃
④	【ピピア】江南図書館	○		○	○	〃

6　管理運営の状況

図書館における業務委託の導入効果は、次頁の図表 6-2-6 のとおりです。熊谷図書館は４図書館の中で中央館としての役割があることから直営としていますが、セルフ貸出・返却機を導入するなどサービスの向上や効率化を図っているところです。

（※1）大里・江南の両図書館は複合施設の一部が図書館となっている施設ですが、電気料金などの維持管理経費の一部については、複合施設の他の部分（ホール部分）の管理を受託している業者（指定管理者）の指定管理料等に含まれています。その分は図表 6-2-4 には含まれていませんので、御注意ください。

【図表6-2-6】業務委託の導入効果（図書館）

No.	名称	導入年月日	維持管理運営費（千円）					導入後における その他の効果など
			導入前		導入後		削減効果 ⓑ-ⓐ	
			年度	金額ⓐ	年度	金額ⓑ		
②	妻沼図書館	2015.4.1	2014	32,512	2015	16,165	△ 16,348	2015（平成27）年度から業務委託
③	【あすねっと】 大里図書館	2012.4.1	2011	24,394	2012	10,217	△ 14,177	施設管理は指定管理。図書館業務は委託
④	【ピピア】 江南図書館	2012.4.1	2011	21,173	2012	10,217	△ 10,956	施設管理は指定管理。図書館業務は委託
	合計			78,079		36,598	△ 41,481	比較対象は、人件費関係のみ

＊1 「削減効果」の欄には、削減できた額をマイナス（△）で表示しています。
＊2 端数処理の関係で、表の掲載金額から計算した結果と表中の計算結果とが不一致の場合があります。

数字的にはかなりの効果が上がっており、将来的には指定管理者制度やＰＦＩ等の方法による民間ノウハウ等の導入も考えられます。ただし、一層の導入を進める場合でも、蔵書の選定権限・業務は公共部門に留保するなど、民間と公共との適切な役割分担の視点も欠くことなく、市立図書館としてのより良い図書館サービスを目指すことが重要です。

7　利用者・市民の負担状況

利用者１人当たり又は市民１人当たりのコスト（負担状況）をまとめたものが、図表 6-2-7 です。

図書館は市民なら誰もが無料で利用できる施設であるため、そのコストも市民全員で負担しているわけですが、市民１人当たり年間で現に負担している額（平均値）は、約1，５００円です（緑枠部分最下段）。図書館を利用する人もしない人も、居住するエリアに図書館がある人もない人も含め、負担を分担している状況です。

【図表6-2-7】利用者又は市民の１人当たりコスト（負担状況）（図書館）　　単位：円

No.	名称	利用者1人・利用1回当たり 市のコスト					利用者負担額が市のコストに占める割合 Ⓐ／Ⓔ	市民1人当たり年間コスト（負担額）				備考
		利用者負担額 Ⓐ	維持管理運営費 Ⓑ	減価償却費 Ⓒ	その他経常収入 Ⓓ	合計 Ⓔ= Ⓑ+Ⓒ-Ⓓ		維持管理運営費 Ⓕ	減価償却費 Ⓖ	経常収入 Ⓗ	合計 Ⓕ+Ⓖ -Ⓗ	
①	文化センター 熊谷図書館	0	941	281	1	1,221	0.0%	670	200	0	870	
②	妻沼図書館	0	836	225	0	1,061	0.0%	248	67	0	315	
③	【あすねっと】 大里図書館	0	753	234	0	987	0.0%	128	40	0	168	
④	【ピピア】 江南図書館	0	727	273	0	1,000	0.0%	127	48	0	175	
	全体	0	867	262	0	1,129	0.0%	1,173	354	0	1,527	

8　合併等に伴う整理統合の状況

合併前の市町が各１館の図書館を設置しており（※2）、合併後も整理統合は行われていません。そのため、「2　配置状況」でもみたとおり、現在では、中央エリアに１館、南部エリアに２館、北部エリアに１館の計４館となっており、東部エリアと西部エリアには図書館がない状況です。

「7　利用者・市民の負担状況」でもみたとおり、図書館の維持管理費等を負担する場面では市民全体で支えているわけですので、アクセスの良さを含めた図書館サービスの受益の場面でも、その機会をできるだけ平等に確保することが要請されることとなります。

9　耐震化及び老朽化対策の状況

熊谷図書館は、2017（平成 29）年度に耐震補強工事を実施します。これにより全ての図書館が耐震化されます。また、同館は既に築３５年以上を経過していますが、大規模修繕は行われていません。

（※2）より正確には、大里図書館の設置（2005（平成 17）年 11 月）は合併（同年 10 月）の後です。

第３節　博物館的施設

博物館とは、生物を含むモノ（資料）を収蔵し、研究し公開することを後世に伝えるために系統だって継続して行う機関です。ここで扱う博物館的施設は、このような機関及びそれに類似する機能を持つ施設です。その内容は、扱う対象によってさまざまですが、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等と多種多様な資料等を収集、整理、保存、展示し、教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査・研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、資料に関する調査研究を行うものです。よって、そのままの形で保管された実際の資料を見ることができ、実物からでしか得られない貴重な体験や忘れられない感動をもたらす絶大な効果があります。一方で、資料等の収集・保存、調査・研究、展示には多額な費用がかかり、熊谷の歴史・文化を特徴づける作品、資料及び埋蔵文化財出土品資料等は、永い年月にわたり保管していく必要があり、特に埋蔵文化財出土品資料は、その量も時とともに増加の一途です。

１　施設概要

本市が保有する博物館的施設の概要は、図表６-３-１のとおりです。

【図表6-3-1】施設概要（博物館的施設）　　2016年3月31日現在

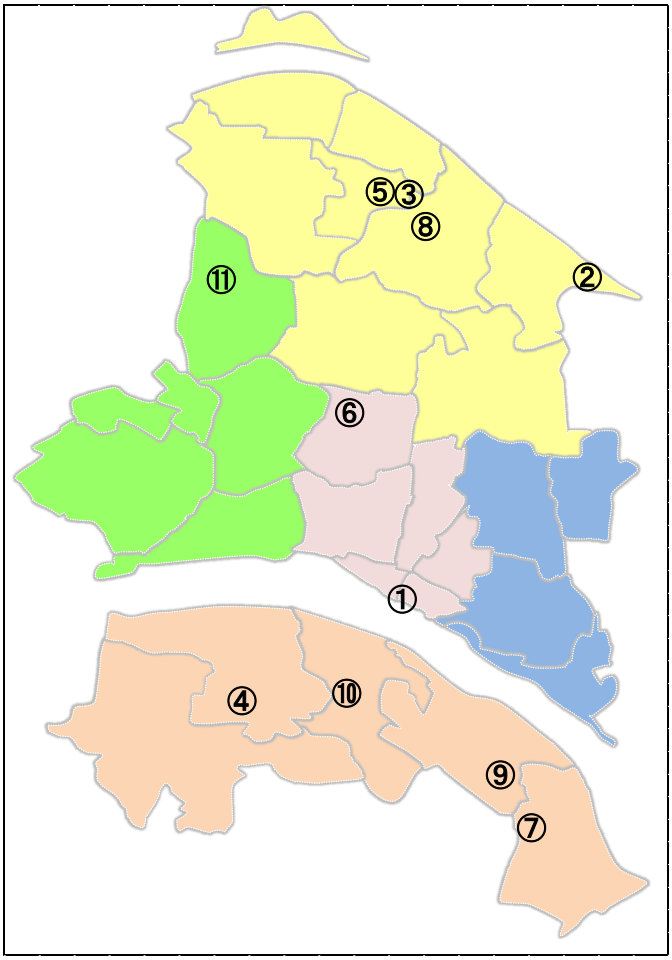
No.	名称			敷地面積（㎡）	建築年度	延床面積（㎡）	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
①	文化センター	熊谷図書館	美術展示室	―	1979	635.88	2039	2009	×		耐震補強工事を2017年度に実施。ﾌﾟﾗﾈﾀﾘｳﾑ館の延床面積は屋上天文台19.63㎡を含む。
			郷土資料展示室		1979	635.88	2039	2009	×		
		プラネタリウム館			1979	266.13	2039	2009	×		
②	荻野吟子記念館			1,871.00	2006	174.47	2046	2026	○	△	延床面積は、物置、屋外ﾄｲﾚを含む。
③	妻沼展示館			3,330.47	2000	1,259.67	2060	2030	○	△	
④	江南文化財センター			2,041.00	2006	916.75	2056	2031	○		
⑤	妻沼民俗資料収納庫			―	1972	139.00	2012	1992	△		妻沼勤労福祉会館敷地内
⑥	埋蔵文化財整理所（【くまぴあ】内）			―	1964	67.50	2024	1994	○		【くまぴあ】創作展示棟3階
⑦	大里文化財整理所			―	1962	257.76	2012	1987	△		吉見小学校地内。大里さくら児童ｸﾗﾌﾞ（160.14㎡）と同一の建物
⑧	熊谷市文化財倉庫			―	1983	220.50	2043	2013	○		旧妻沼清掃ｾﾝﾀｰ管理棟
⑨	大里埋蔵文化財倉庫			―	1993	51.00	2043	2018	○		大里庁舎敷地内
	大里民具倉庫			―	1993	51.00	2043	2018	○		〃
⑩	村岡市指定文化財収納庫			―	1994	49.68	2034	2014	○		吉岡小学校地内
⑪	別府遺物収納庫			―	1995	68.04	2045	2020	○		別府体育館敷地内。発掘調査用具庫として使用
	合計			7,242.47		4,793.26					

機能を見ると、歴史・美術関係が文化センター熊谷図書館美術展示室（①）ほか７施設で、うち埋蔵文化財出土品の収蔵・整理・保存・展示を行っているのは江南文化財センター（④）ほか５施設になります（①を３施設、⑨を２施設としてカウント）。なお、主催事業として年間を通じて企画展や各種講座を行っているのは、熊谷図書館美術展示室・郷土資料展示室のみです。民俗については、妻沼民俗資料収納庫（⑤）や文化センターに保存しています（そのほか、大里民具倉庫（⑨）、村岡市指定文化財収納庫（⑩）があります。）。自然科学では、文化センタープラネタリウム館（①）の１施設ですが、屋上に天文台を設置し、県内屈指の高精度大型望遠鏡を備えています。荻野吟子記念館（②）は、埼玉の偉人荻野吟子の顕彰を目的とした展示施設です。妻沼展示館（③）は、東武熊谷線の車輌資料等を保存する展示施設部分と各種サークル等の作品展示の場として貸館部分を持つ施設です。この２施設は、他の１２施設とは機能を異にします。

最も古いものは 1962（昭和 37）年度建築の大里文化財整理所（⑦）です。スポーツ・文化村【くまぴあ】内に所在する埋蔵文化財整理所（⑥）は、2014（平成 26）年度の【くまぴあ】改修工事を経て新耐震基準を満たしたため、熊谷市文化財倉庫（旧妻沼清掃センター内。⑧）から整理所機能を移転（倉庫機能は存続）したものです。文化センター（熊谷図書館美術展示室・郷土資料展示室・プラネタリウム館）は、耐震性能に問題があるため、2017（平成 29）年度に耐震補強工事を実施します。最も新しい江南文化財センター及び荻野吟子記念館が供用開始（開館）となったのは、2006（平成 18）年度でした。

なお、文化センターに所在する３施設は図書館やホールとの複合施設であり、【くまぴあ】に所在する埋蔵文化財整理所は創作展示棟の１室です。また、妻沼民俗資料収納庫はシルバー人材センター作業室と、大里文化財整理所は大里さくら児童クラブと １ つの建物を共用しています。これらの施設については、博物館的機能を有する部分の延床面積のみを表に計上しています。

【図表6-3-2】配置状況（博物館的施設）



2　配置状況

各施設の配置状況は、図表 6-3-2 のとおりです。３つの機能（美術館、郷土資料館、プラネタリウム館）が集中する文化センター（①）を３施設分と数えると、中央エリアに４つ、北部エリアに５つ、南部エリアに５つの配置となっています。比較的小規模な施設が市内各所に分散配置されています。

3　利用状況

各施設（資料非公開施設を除く。）の利用者数及び稼働率は、次頁の図表 6-3-3 Ａ、Ｂ及びＣのとおりです。

文化センター熊谷図書館美術展示室（①）の開館日数は年間１３０日程度ですが、常設展示ではなく企画展示用途のため、借り受けた展示品の返却期限による制約や展示替えなどに日数を要することなどの事情により、やむを得ない面もあります。

江南文化財センター（④）は、主に埋蔵文化財出土品の収蔵・整理・保存を行っているほか、出土品の活用として展示を行っており、また、夏期休業中を中心に普及啓発事業として体験学習等を行っていることから、来館者の時期的な変動があり、開館１日当たり利用者数は少ない現状です。

なお、資料収蔵庫や文化財整理所については、主に収蔵が目的の施設であることから利用者等の統計はありません。ちなみに、妻沼民俗資料収納庫（⑤）は、収蔵展示のスタイルを採って収蔵していることから、要望があれば一般に公開が可能な状況です。

4　コスト状況

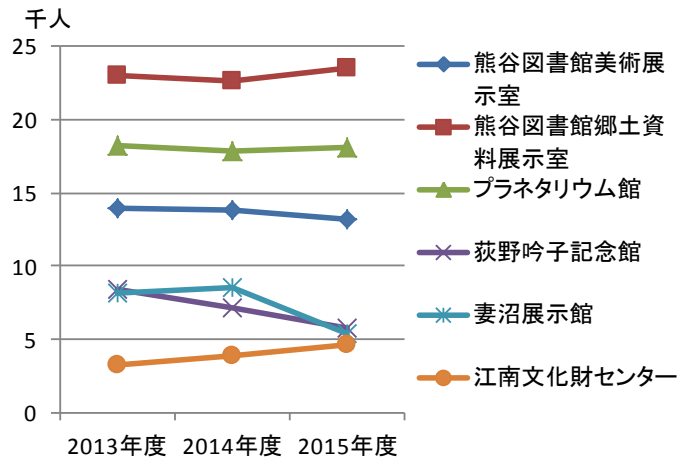
各施設の人件費を含めたコスト状況は、次頁の図表 6-3-4 のとおりです。

【図表6-3-3 A】利用状況（博物館的施設）

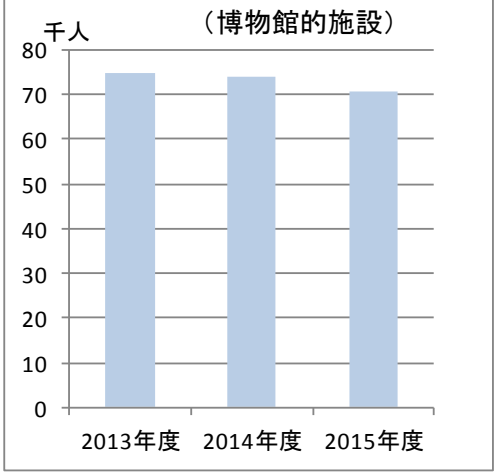
2013～15年度の3か年平均

No.	名称			年間開館日数（日）ⓐ	年間利用者数（人）ⓑ	開館1日当たり利用者数（人/日）ⓑ/ⓐ	開館率	稼働率	備考（諸室、設備等）
①	文化センター	熊谷図書館	美術展示室	132	13,660	103	36.2%	—	
			郷土資料展示室	285	23,086	81	78.0%	—	
		プラネタリウム館		285	18,030	63	78.0%	—	投影回数は、日曜・祝日は3回、土曜は2回、平日は1回
②	荻野吟子記念館			307	7,115	23	84.0%	—	
③	妻沼展示館			290	7,392	25	79.5%	19.6%	大展示室、小展示室、常設展示室、東武熊谷線車輌展示ｺｰﾅｰ。稼働率は、大小展示室のみで計算
④	江南文化財センター			246	3,878	16	67.4%	—	事務室（文化財保護係執務室）、作業室、展示室、会議・講座室（40人）、収蔵庫
⑥	埋蔵文化財整理所（【くまぴあ】内）			—	—	—	—	—	出土品整理室（2015.4.1供用開始）
合計（全体）					73,161	311	67.8%		

【図表6-3-3 B】利用者数推移__施設別（博物館的施設）



【図表6-3-3 C】利用者数推移__全体（博物館的施設）



【図表6-3-4】コスト状況（博物館的施設）

単位：千円

No.	名称			費用（コスト） 維持管理運営費（経常）ⓐ	維持管理運営費（臨時）	減価償却費ⓑ	合計 ⓒ=ⓐ+ⓑ	収入（経常） 使用料等	収入（経常） その他	収入（経常） 合計ⓓ	収入（臨時）	正味コスト ⓒ-ⓓ	備考（管理方法等）
①	文化センター	熊谷図書館	美術展示室	22,960	2,322	6,889	29,849	0	241	241	604	29,608	主催事業の費用を含む。
			郷土資料展示室	20,437	2,085	6,889	27,326	0	241	241	604	27,085	〃
		プラネタリウム館		34,811	1,184	2,883	37,694	728	0	728	173	36,966	
②	荻野吟子記念館			5,242	1,294	2,807	8,049	0	40	40	0	8,009	
③	妻沼展示館			6,169	0	13,646	19,815	153	0	153	0	19,662	人件費以外の市史編さん事業の経費を含む。
④	江南文化財センター			2,841	0	11,918	14,759	0	0	0	0	14,759	
⑤	妻沼民俗資料収納庫			212	0	2,259	2,471	0	0	0	0	2,471	
⑥	埋蔵文化財整理所（【くまぴあ】内）					731	731					731	対象年度では未開設
⑦	大里文化財整理所			219	0	3,351	3,570	0	0	0	0	3,570	
⑧	熊谷市文化財倉庫			2,351	0	2,389	4,740	0	0	0	0	4,740	
⑨	大里埋蔵文化財倉庫			0	0	663	663	0	0	0	0	663	
	大里民具倉庫			0	0	663	663	0	0	0	0	663	
⑩	村岡市指定文化財収納庫			0	0	807	807	0	0	0	0	807	
⑪	別府遺物収納庫			0	0	885	885	0	0	0	0	885	
	合計			95,242	6,885	56,780	152,022	881	522	1,403	1,381	150,619	

他のほとんどの公共施設（機能）と同様、コストが収入を大幅に上回っていますが、これは、社会教育施設であるため使用料を無料又は低額に抑えていることも影響しています。

文化センタープラネタリウム館は、高精度な投影機を維持するためハード面でのコストが大きいものの、ソフト面では職員が投影番組も自作しており、高額な番組を購入しないことで経費を抑えています。

妻沼展示館のコストには、市史編さん事業関係の経費も一部含まれているため、貸館施設と考えた場合には過大な数字となっています。

5　災害時の役割

災害発生時の避難場所・避難所としては、文化センターのみ指定されています（前節図表 6-2-5 等を参照）。

なお、妻沼展示館は、避難所には指定されていませんが、大展示室は２９３．３０m^2 と規模が大きく、利用がない場合は床面が平坦であり、ホール部分を含めて寝起きには適しています。

6　管理運営の状況

現在、全ての博物館的施設は直営管理です。直営管理であるからといって一概に非効率というわけではなく、サービス向上にも努めていますが、指定管理の導入等の選択肢もあります。

実際に、博物館においても指定管理者制度の導入は始まっており、問題点やその解決策が整理されてきています。

問題点としては、①短期の取組に偏重しがちであること（指定管理の期間が限定されており、受託期間内に効果が上がる取組に傾倒しがちで、長期的ビジョンを持ちにくい。）、②専門性の高い人材が育成されづらいこと（指定管理者は指定期間を意識した雇用（契約社員で対応）をしがちで人材育成が難しい。）、③収益につながりにくい業務が削減されること（収集・保管、調査研究といった直接収益につながらない業務が軽んじられるという危惧がある。）などが挙げられています。

その解決策としては、①業務を分割し、その一部での指定管理者制度の活用（収集・保管、調査研究は直営にし、企画、広報や施設管理は指定管理者に委託する。）、②業務を分割して複数の指定管理者に委託する方法（収集・保管、調査研究といった長期の取組が必要な業務は長期の指定管理期間とし、業務にあった評価項目を定めて業務に適した指定管理者に委託する。企画、広報や施設管理といった業務は中期の指定管理期間を設け、この業務に合った評価項目によりモニタリングする。）などが考えられます。しかしながら、博物館施設のような専門性の高い施設は、期間を区切って運営主体が変わるような方法はなじまず、安定的かつ継続的な企画・運営が求められるため、県内では逆に市民からの要望等により指定管理から直営に運営主体を戻した施設もあり、より精査して慎重に考える必要があります。

7　利用者・市民の負担状況

利用者１人・利用１回当たり又は市民１人当たりのコスト（負担状況）は、次頁の図表 6-3-7 のとおりです。

利用者負担額が市のコストに占める割合（水色の枠の部分）をみると、博物館的施設全体では約１％であり、残りの９９％は施設を利用しない人も含めた市民全体で負担している状況です。

誰もが利用できる無料施設を市民全員の負担で支えていると考えれば、特に問題はありません。さらに、博物館法第 23 条では、「公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない」と定められています。ただし、博物館的施設は、市民に限らず、広く多用な人々や団体に利用される面がある一方で、ある程度特定のニーズを求める利用者・利用団体を相手にしているという特殊な面も持ち合わせています。そのように考えると、前者の側面については市民以外の者にも負担をしてもらうという視点から、後者の側面については特定のニーズを求める利用者にそのニーズの対価を払ってもらうという視点から、有料化の方向で適切な使用料・利用料金について検討していくことも可

【図表6-3-7】利用者又は市民の１人当たりコスト（負担状況）（博物館的施設）

単位：円

No.	名称			利用者1人・利用1回当たり					利用者負担額が市のコストに占める割合 Ⓐ／Ⓔ	市民１人当たり年間コスト（負担額）				備考（利用者負担額が維持管理運営費に占める割合）Ⓐ／Ⓑ
				利用者負担額 Ⓐ	市のコスト					維持管理運営費 Ⓕ	減価償却費 Ⓖ	経常収入 Ⓗ	合計 Ⓕ+Ⓖ−Ⓗ	
					維持管理運営費 Ⓑ	減価償却費 Ⓒ	その他経常収入 Ⓓ	合計 Ⓔ= Ⓑ+Ⓒ−Ⓓ						
①	文化センター	熊谷図書館	美術展示室	0	1,681	504	18	2,167	0.0%	114	34	1	147	0.0%
			郷土資料展示室	0	885	298	10	1,173	0.0%	101	34	1	134	0.0%
		プラネタリウム館		40	1,931	160	0	2,091	1.9%	173	14	4	183	2.1%
②	荻野吟子記念館			0	737	395	6	1,126	0.0%	26	14	0	40	0.0%
③	妻沼展示館			21	835	1,846	0	2,681	0.8%	31	68	1	98	2.5%
④	江南文化財センター			0	733	3,073	0	3,806	0.0%	14	59	0	73	0.0%
⑤	妻沼民俗資料収納庫									1	11	0	12	
⑥	埋蔵文化財整理所（【くまぴあ】内）									0	4	0	4	
⑦	大里文化財整理所									1	17	0	18	
⑧	熊谷市文化財倉庫									12	12	0	24	
⑨	大里埋蔵文化財倉庫									0	3	0	3	
	大里民具倉庫									0	3	0	3	
⑩	村岡市指定文化財収納庫									0	4	0	4	
⑪	別府遺物収納庫									0	4	0	4	
	全体			12	1,302	776	7	2,071	0.6%	472	281	7	746	0.9%

能です。特に、現に有料施設であるプラネタリウム館については、どの市町にもある施設ではないという希少性からある程度広域の利用者を想定できるため、市民以外による利用も考慮に入れた適切な使用料の検討が要請されます。

なお、博物館的施設の中で例外的に貸館を実施している妻沼展示館については、市民文化施設などと同様の視点での使用料についての検討が必要です。

８　合併等に伴う整理統合の状況

博物館的施設は、一般用に供する性格の施設と、文化財の収蔵を主たる目的とし一般に供することのない施設に二分されます。前者は、文化センターの熊谷図書館美術展示室・郷土資料展示室とプラネタリウム館、荻野吟子記念館及び妻沼展示館（①～③）であり、後者は、江南文化財センター、妻沼民俗資料収蔵庫ほか７つの施設（④～⑪）です。ただし、江南文化財センターについては、埋蔵文化財の収蔵と活用の両方を目的としているため、両者の性格を併せ持っているといえます。

これらの多くの施設は合併前の配置を引き継いでいるため、機能的に関連する施設が市内に点在しており、利用者にとっても管理する市にとっても不便又は非効率な状況にありますが、各々の施設の性格を精査し、機能分化によって効率の良い利用を促す必要もあります。

９　耐震化及び老朽化対策の状況

文化センターの熊谷図書館美術展示室・郷土資料展示室とプラネタリウム館の耐震性の確保が課題でしたが、２０１７年度に耐震補強工事を実施します。

また、耐震性能不足の可能性がある妻沼民俗資料収納庫、大里文化財整理所、大里埋蔵文化財倉庫、大里民具倉庫及び別府遺物収納庫については、一般の市民の利用はなく、将来的には整理統合に伴う廃止の可能性も低くないことから、耐震化の優先順位は低いとも考えられます。

なお、村岡市指定文化財収納庫については、埼玉県内でも数少ない荒川の交通の歴史を知る貴重な「村岡の渡し船」３艘が保管されていることから、耐震診断の必要性を含めて耐震性の確保が検討課題です。

第4節　歴史公園（星溪園）

歴史公園とは、文化遺産・史跡の保護保存と歴史継承を目的として設置された公園です。また、公園として設置されたものでなく、古墳や古民家などの文化遺産が公開されている敷地を「歴史公園」と呼ぶ場合もあります。さらに、都市計画法上の都市施設である公園としては、同法施行規則に定める特殊公園の一類型として「歴史公園にあっては、遺跡、庭園、建築物等の文化的遺産の存する土地若しくはその復元、展示等に適した土地又は歴史的意義を有する土地を選択して配置する。」と定義されています。歴史公園は、地域に保存継承された文化遺産を通して、郷土愛や伝統文化の大切さを醸成する気概を育ててくれる場でもあります。

1　施設概要

本市は、星溪園という歴史公園を唯一保有しています。その概要は、図表 6-4-1 のとおりです。

星溪園は、回遊式庭園で、本市の産業・土木面に大きな功績を残した竹井澹如翁によって、慶応年間から明治初年にかけて造られました。星溪園の名は、昭和初期、前大徳牧宗禅師により命名され、1950（昭和 25）年に本市が譲り受け、1954（昭和 29）年に市の名勝として指定されました。

庭園内に星溪寮・松風庵・積翠閣と3棟の建物があり、元は全棟が渡り廊下でつながっていました。しかし、建物の老朽化が著しかったため、1990～92（平成2～4）年にかけて建物と庭園の整備がなされ、その際に各棟が独立した建物となりました。

星溪寮は、3棟の建物の中で中心的建物であり、１２畳半の一の間を中心に、二の間・前室・茶室（3畳中板の小間）・立礼席等があります。一の間の前には月見台が、前室の後には坪庭があります。

松風庵は、二室からなる庵室で、星溪寮と積翠閣との中央に位置します。積翠閣は、松風庵の北に位置し、高床式の建物で、2階は和室と洋室からなり、月見台もあります。また、玄関のある1階には、資料展示室が設置されています。

庭園は、かつて湧き水があり星川の水源となっていた「玉の池」（面積1，０２０m^2）の周囲に通路が巡っていて、玉の池の中島には四阿が、玉の池の周囲南西には腰掛待合が設置されています。

【図表6-4-1】施設概要（歴史公園）　　2016年3月31日現在

No.	名称	敷地面積（㎡）	建築年度	延床面積（㎡）	耐用年限	修繕時期	耐震性能	補助金	備考
①	星溪園	3,847.43	1992	275.76	2032	2012	○		星溪寮160.82㎡、松風庵42.90㎡、積翠閣72.04㎡。庭園面積は3,613㎡

2　配置状況

施設の配置状況は、次頁の図表 6-4-2 のとおりです。中心市街地を流れる星川（導水幹線星川）と鎌倉町商店街の南北の通りが交わる位置にあります。

3　利用状況

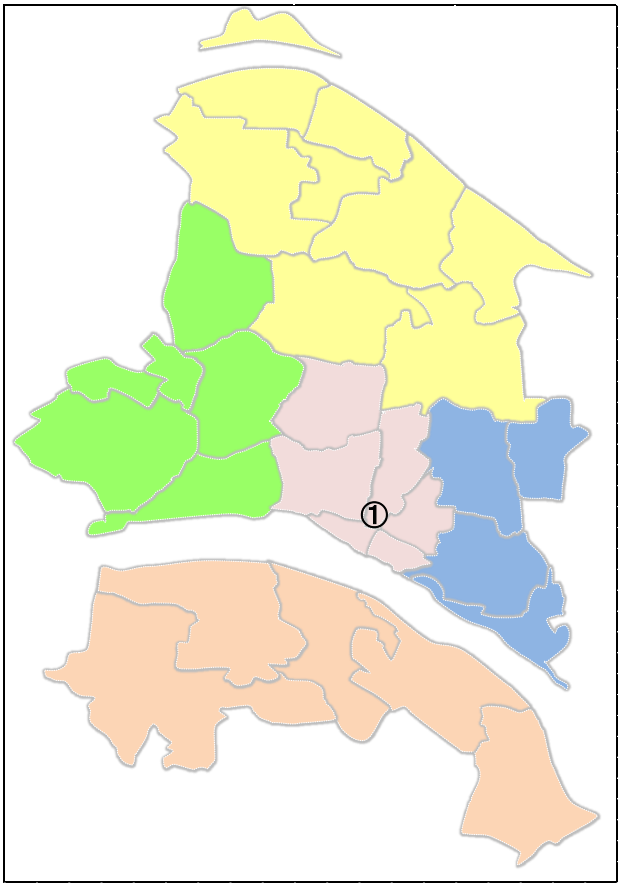
星溪園の利用者数及び稼働率は、次頁の図表 6-4-3 のとおりです。

数値を見る限りでは利用状況は芳しくありませんが、庭園自体の入園は貸切りで使用する場合以外は無料で、散策等も自由にできるため、そのような形態での利用状況が統計には表れていないことも原因であると考えられます。

また、星溪園は、熊谷市星溪園条例施行規則により施設利用者の範囲が決められており、その制約が数字上の利用状況を押し下げている面もあると思われます。具体的には、①茶会、歌会、俳句、生け花、琴、詩吟等の日本的文化教養のための催し、②市への賓客の応接、③写真撮影会や、④茶会等（①）のための勉強会（研修会）や打ち合わせ会、囲碁や将棋等の①に準じたもので静粛に利用する場合に限ることとされています。よって、星溪園のような施設の利用状況を測るためには、利用者数や稼働率といった「量」の側面だけでなく、「質」の側面をも考慮に入れなければならず、適切な判定方法を定めることは困難である面もあります。

なお、2014（平成 26）年 10 月からは、許可基準等に抵触する場合を除き、園内における販売行為等も許可しており、利用者の利便性の向上を図っています。

【図表6-4-2】配置状況（歴史公園）



【図表6-4-3 A】利用状況（歴史公園）

2013～15年度の3か年平均

No.	名称	年間開館日数（日）ⓐ	年間利用者数（人）ⓑ	開館1日当たり利用者数（人/日）ⓑ/ⓐ	稼働率	備考（貸室、設備等）
①	星溪園	301	3,517	12	8.3%	星溪寮（41人）、積翠閣（36人）、松風庵（22人）、茶室（6人）、立礼席（19人）

＊　年間利用者数には、入園無料の庭園部分の利用者数は含みません。

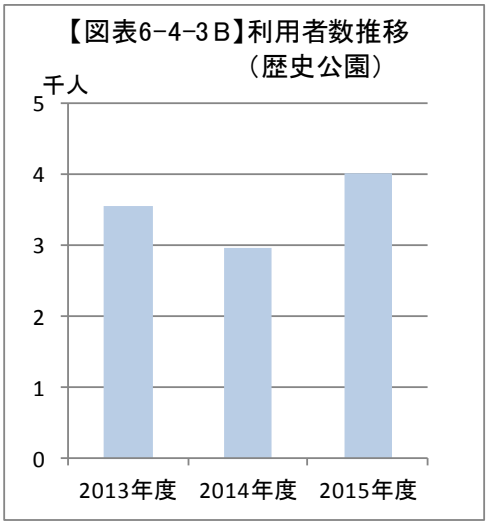
4　コスト状況

人件費を含めたコストの状況は、図表 6-4-4 のとおりです。

5　災害時の役割

星溪園は、災害発生時の避難場所・避難所には指定されていません。

【図表6-4-3 B】利用者数推移（歴史公園）



【図表6-4-4】コスト状況（歴史公園）

単位：千円

No.	名称	費用（コスト）				収入				正味コスト ⓒ-ⓓ	備考（管理方法等）
		維持管理運営費		減価償却費ⓑ	合計 ⓒ=ⓐ+ⓑ	（経常）			（臨時）		
		（経常）ⓐ	（臨時）			使用料等	その他	合計ⓓ			
①	星溪園	7,881	0	3,861	11,742	917	1	918	0	10,824	

６　管理運営の状況

現在、施設は直営管理です。しかし、直営管理であるからといって一概に非効率というわけではなく、「３　利用状況」で既述のとおり、サービス向上にも努めています。仮に施設の存続の方針が定まり、新たな施設に更新することとなった場合には、指定管理者制度、ＰＦＩ等の方法により、民間ノウハウ等の導入を図ることも検討事項です。

７　利用者・市民の負担状況

利用者１人・利用１回当たり又は市民１人当たりのコスト（負担状況）をまとめたものが、図表 6-4-7 です。

利用者負担額が市のコストに占める割合（水色の枠の部分）をみると約８％であり、残りの約９２％は施設を利用しない人も含めた市民全体で負担している状況です（比較の対象を維持管理運営費に限れば、利用者負担割合は約１２％となります。備考欄参照）。

【図表6-4-7】利用者又は市民の１人当たりコスト（負担状況）（歴史公園）

単位：円

No.	名称	利用者1人・利用1回当たり					利用者負担額が市のコストに占める割合 Ⓐ／Ⓔ	市民１人当たり年間コスト（負担額）				備考（利用者負担額が維持管理運営費に占める割合）Ⓐ／Ⓑ
		利用者負担額 Ⓐ	市のコスト					維持管理運営費 Ⓕ	減価償却費 Ⓖ	経常収入 Ⓗ	合計 Ⓕ+Ⓖ−Ⓗ	
			維持管理運営費 Ⓑ	減価償却費 Ⓒ	その他経常収入 Ⓓ	合計 Ⓔ=Ⓑ+Ⓒ−Ⓓ						
①	星渓園	261	2,241	1,098	0	3,339	7.8%	39	19	5	53	11.6%

８　合併等に伴う整理統合の状況

星渓園は歴史公園として市内唯一の施設であり、歴史・沿革を考慮すれば移転するというわけにもいかないため、整理統合・再配置の検討にはなじみません。

９　耐震化及び老朽化対策の状況

本施設に関しては、耐震性の確保や老朽化対策について、緊急又は早急に取り組むべき課題はありません。

しかしながら、1990～92 年度にかけて行った建物と庭園の整備以来 20 年以上が経過し、建物において老朽化が進み、修繕等が必要になっています。その修繕等も、格調高く、日本的文化教養の場として相応しい品格を保つべく、優先順位をつけ実施していますが、諸般の事情により計画どおり容易に進んでいないのが現状です。

本施設は、当面は大規模修繕を実施する必要はないと考えますが、格調高く、日本的文化教養の場として長期的に存続を図っていくためには、適切な時期に大規模修繕の実施が必要です。